

赤水資料寄贈で感謝状

重文指定 高萩市顕彰会・子孫らに

高萩市出身の江戸時代の地理学者、長久保赤水（1717～1801年）の関係資料693点が国の重要文化財に指定されたのを記念して、高萩市は13日、地図や肖像画など貴重な資料を市に寄贈した子孫ら6人と「長久保赤水顕彰会」（佐川春久会長）に感謝状を贈った。

市役所で贈呈式が開かれ、大部勝規市長は一人ひとりに感謝状を手渡した後、「指定を機に赤水に関する研究はますます進むと考えている。市は適切な管理に努め、修復やデジタル化を進めるとともに研究者への情報提供をしていきたい」と述べた。

感謝状を贈られた長久保和良さん（前列右端）ら（13日、高萩市役所で）

式 贈 呈 状 謝 感



子孫らを代表して長久保和良さん（89）は「かつてはなかなか評価を得られなかったが、先輩たちの努力によって少しずつ世間に認められるようになった。世界

に冠たる長久保赤水として、さらなる研究推進をお願いしたい」とあいさつした。

赤水図マンホール 高萩市内5か所に

長久保赤水の関係資料が国の重要文化財に指定されたのを記念して、日立・高萩広域下水道組合は、赤水編集の日本地図をデザインしたマンホール蓋を高萩市内5か所に設置した。



赤水図をデザインしたマンホール蓋

伊能忠敬作製の日本地図より42年前の1779年に赤水が完成させた経緯線入りの「改正日本輿地略程全図」（赤水図）をカラーであしらった。市役所前や県指定文化財「穂積家住宅」前の歩道などに設置した。